

2日目：8月22日（金）

[趣旨]

2日目は、1日目における最新の中教審答申を囲んでの議論も踏まえながら、林和弘先生を基調講演の講師としてお迎えし、広島大学高等教育研究開発センター研究員集会そしてセンター等協議会全体として以下の論点を共有・議論し、今後の学内におけるセンターの立ち位置・機能の見直しや、センター間連携の可能性を模索します。

- ・制度上は「学」として成立しつつあるものの、一部進みつつあるセンター群の統廃合が暗示するように、大学現場との関係が変容しつつある高等教育「学」の専門家・専門性のあり方を今一度再考する必要はないだろうか。この問題について、林和弘先生の知見も踏まえながら批判的に検証し、「学」としてのありべき姿、社会や学内での有用性や社会実装の可否を検討する。
- ・本協議会が発足して30年近く経つが、この事実は大学にとって高等教育に関する専門家やそうした組織の必要性が認知浸透してきたことの証左であると暗黙のうちに認識していたところではある。しかし近年関連組織の統廃合が相次いだことにより、そうした前提を見直す時期が来たようにも思われる。
- ・高等教育系センターは、必ずしも高等教育の専門家による純粋組織ではなく、例えば組織の長に他の専門を有する教員が就任する等、非専門家の専任・兼任も含む混成組織であることが多い。このような組織的特徴を今一度認識しつつ、その特徴がもたらすメリット・デメリットを検討し、本部や他部局との対話や業務の進め方、個人の研究の進め方を包括的に検討する。
- ・1日目で取り上げた直近の中教審答申も踏まえ、大学経営という観点からも、高等教育(研究)の専門家・高等教育系センターの役割を再考する必要もあるのではないか。